

# fure-fure



高知県立大学 看護学部  
Faculty of Nursing University of Kochi



U.K.  
Faculty of Nursing  
University of Kochi



## ■ 看護学部学部長 藤田佐和先生

今年の4月から看護学部長を務めております。出身は高知県。高知女子大学看護学科の卒業生で、平成の時代を高知女子大学とともに歩んできました。

看護学部は、高知女子大学看護学部の歴史と伝統を礎として、看護学の知を創造し、社会のニーズに沿える看護専門職者の育成を行っています。看護学部の教育は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目標としています。卒業時には、①専門的知識、技術、科学的論理性及び倫理的判断に基づいて、保健・医療・福祉などのあらゆる場で看護を実践することのできる能力、②人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重して、コミュニケーションを取りながら他者と関係性を築くことのできる能力、③地域の健康課題を予測し、リーダーシップを発揮して多職種と協働しながら健康課題を解決することのできる能力、④看護専門職者としてのアイデンティティを培い、生涯にわたって専門性を高めることのできる能力、⑤看護の質の向上に資する研究をすることができる基礎的な能力、⑥国際的及び学際的見地に立って看護学を理解することのできる能力、⑦看護の専門性を活かして、地域で生活する人々の健康と安全・安心な社会を創造することのできる基礎的な能力、を獲得できるように支援していきます。

看護学部では、常に変革する社会の動きを見据え、教育目標や内容・方法等を見直し、入学してきた学生さん一人ひとりが看護の専門性を学び、夢と希望をもって専門職者として成長すること、学ぶ楽しさを体験することを大切にし、全教員で学生さんを支援しています。また、将来看護師、保健師、助産師、養護教諭として国内外で活躍できるように、教員体制、充実したカリキュラム、学習・実習環境、地域社会や卒業生とのネットワークを整えています。大学の4年間は、看護者としては勿論ですが、一人の人としての基盤づくりとなります。大学の講義、演習、実習、看護研究を通して豊かに学ぶとともに、地域や国際社会の多くのことに興味・関心をもち、主体的にやりたいことに挑戦し、わくわくする体験をして頂きたいと思っています。私たち教員は、学生さんの個性や力を見極め、力を発揮して成長できるよう、最善を尽くして応援していきます。



## ■ 看護学部の活動－履修モデル改訂の取り組み 教務委員長 瓜生浩子先生

大学では、専門的な知識や技術を修得するだけでなく、それを活用して社会で活躍していけるよう、幅広い教養や柔軟な応用力を身につける必要があります。看護学部では、学生の皆さんの学びを豊かにするために多くの選択科目を設けており、多岐にわたる授業科目を体系的に整理し、将来希望する分野が探求できるように推奨科目を示した「履修モデル」を提示して、1年次から学修支援を行っています。これまでは、なりたい専門職、取得したい専門資格ごとに履修モデルを提示していましたが、今年度より新たな履修モデルを提示して履修指導の充実を図っています。

新たな履修モデルでは、学生さんが将来、看護専門職としてどのように活動していきたいかを見据えて、「学士力看護学探求力」「地域協働力」「グローバル力」のいずれかの能力を獲得できるように強化する選択科目をリストアップし、各科目の推奨レベルと開講時期を明示しました。看護の専門科目だけでなく、主に1・2年次に履修する共通教養教育科目についても能力との対応を示し、4年間を通して力の獲得を目指した学修ができるように工夫しています。また、本学卒業時に修得を期待する能力を示した「ディプロマ・ポリシー」に沿って学修を深められるように、ディプロマ・ポリシーの7つの能力それぞれを強化する選択科目を学年ごとに示しました。このように、新たな履修モデルは、学生さん自身が将来に向けて獲得したい力をつけていくための指針の役割を果たします。

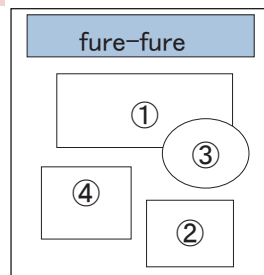
高校までとは違い、大学では自ら進んで学び、追求していく姿勢が必要となります。入学時から自らの将来像を描き、学びたい科目を選択していくことが、学習意欲や主体的な姿勢へとつながっていくと考えます。これからも、学生の皆さんが自らの夢を実現する力や社会で活躍する力を着実に養うことができるよう支援していきたいと思ひます。



看護学部での授業の様子



### ■ 表紙の写真



- ①1回生 バスハイク
- ②2回生 バスハイク
- ③3回生 学内演習の様子
- ④4回生 家族看護実習の様子



## ■ 各学年の大学生生活

### ■ 1回生 ■



1回生の授業の1コマです。この授業では、対象者の苦痛を軽減する技術の1つであるリラクゼーションを学習しています。この演習では、呼吸法と手浴時のマッサージを体験しました。ケアを提供する時には苦痛を与えてないかと緊張しながら実施していますが、患者役を体験して、「もう少し力を入れるともっと心地がよいんだ」「あっ！患者さんに聞かないとわからないんだ」と多くの学びをしています。講義で学んだことを体験することでさらにケアについて深く考えているようです。7月末には、血圧測定などのバイタルサイン測定技術の試験があります。素早く、正確にそして患者さんにとって安全・安楽な方法ができるようになる！を目指して、日々練習しています。また、授業だけでなく、サークルや他大学との交流など様々な活動を主体的に行いながら、それぞれに自分の目標に向けて頑張っています。

### ■ 2回生 ■



4月には企画委員が中心となって、新入生とのバスハイクを企画・運営しました。午前中は南国市の西島園芸団地でいちごを堪能し、午後は学内の体育館でレクリエーションを行いました。アイデアのつまった数々のゲームを参加者が楽しみ、また、親睦を深めるひと時となり、新入生をサポートする2回生のリーダーシップが大いに発揮されていました。授業では、医学的な知識や看護の基盤となる知識、さらに、専門的な看護の学習をしています。1回生の時に学んだ内容を使いながら、新しい知識を重ねて、演習ではケアを実施します。学生は患者役と看護者役の両方を経験します。看護者役の学生から、患者役としてケアを受けて感じたことをもとに、自分の看護実践を振り返り、看護技術の精錬化をはかります。8月からは「看護基盤実習」が始まります。ここでは、入院患者さんを受け持ち、清潔、食事、排泄など生活を中心とした援助を実際に行っていきます。

### ■ 3回生 ■



3回生は、10月から始まる領域看護実習に向けて、これまで学んできた知識を統合しながら、多面的に対象の反応を捉え看護を展開できるように学びを深めています。6月には、3回生対象の保健医療系就職ガイダンスを開催しました。これは、病院の看護管理者、教員、先輩から就職やキャリアについてお話いただきました。看護師、保健師、助産師、養護教諭として活躍している先輩方が、仕事内容、就職活動、国家試験対策など、それぞれの体験を踏まえて具体的に伝えてくださり、学生たちは積極的に質問をしていました。実施後のアンケートでは、「実際の仕事の内容ややりがいなどを聞くことができ、具体的なイメージがついた」「就職後どのように働きたいか、将来に向けて今何をすべきなのかを考えるきっかけになった」などの感想があり、学生たちにとって将来の進路に向けて次のステップを踏み出す機会となりました。

### ■ 4回生 ■



4回生は、講義、看護研究、就職活動、国家試験対策と、卒業に向けて様々なことに取り組んでいます。その中でも、看護研究は、4回生の1年間を通して、じっくりと取り組むものです。学生さんは、授業や実習での体験から知りたいと思ったことを研究課題として取り上げ、探求していきます。研究では、患者さんとそのご家族、病院スタッフ、本学の学生さんから協力を得て、データを収集させていただきます。研究を通して、患者さんの体験を理解したり、最善の看護実践が提供できるように努力します。写真は、手の細菌数に関する実験研究をしているところです。このように、4回生では、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、看護の質の向上に貢献できる研究を行うための基礎的な能力を養います。



## 看護学部から大学院進学へ

### 【大学院に進学して】

看護学研究科長 中野綾美先生

看護学研究科は、昨年、創設20周年を迎えました。平成30年3月現在、246名が修士（看護学）、53名が博士（看護学）の学位を取得し、国内外の大学等の高等教育機関で教育者・研究者・管理者として、保健医療福祉機関で管理者や専門看護師等として活躍しています。看護学専攻博士前期課程・博士後期課程と共同災害看護学専攻博士課程があり、看護学を探究することのできる教育体制と研究体制が整っています。前期課程の「研究コース」は、成人看護、小児看護学、家族看護学、地域看護学、看護管理学の教育課程があります。共同災害看護学専攻は、災害看護のグローバルリーダーを育成する教育課程です。これらは学部卒業後、進学し学ぶことができるプログラムです。「専門看護師コース」は、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の教育課程があります。「実践リーダーコース」は、臨床看護学と地域保健学の2領域があり、働きながら学べる教育課程です。これらは学部を卒業後、実務経験の後に進学し学ぶことのできるプログラムです。学部での4年間の学びは、看護学の基礎となるものです。ぜひ、大学院で学び、看護専門職者として、専門性を高め社会に貢献していただきたいと思います。

### 【在学生より】

平成29年度高知県立大学看護学部卒業生の2名が、本学大学院看護学研究科へ進学しました。

看護学研究科博士前期課程  
地域看護学領域1年 田邊佳香

私が大学院に進学した目的は「地域で多様な人が自由と可能性を実現しながら共生し、よりよく生きる強さと希望を支えるには何が必要か」を理論と実際から明らかにして実践につなげることです。非常時でもいのちをつなぐために日頃から予防的にしておくことや、健康でよく生きるために必要なことは何かを考えています。

看護学研究科博士課程  
共同災害看護学専攻1年 杉本和幸

私は昨年、看護学部を卒業し看護学研究科共同災害看護学専攻に入学しました。看護学部で学びを深めていくと同時に立志社中の活動や自分が生まれ育った高知での経験から災害との密接な関係を意識し始めました。またDNGLでは5大学連携で様々な大学の先生方や学生、留学生との交流もあり自身の可能性を今、最大限に広げることができると期待し入学しました。

## 立志社中プロジェクトによる活動

立志社中プロジェクトは、地域の課題解決に向けて地域の方と協働して主体的に取り組む学生の活動に対し、大学がその活動資金等の支援を行うもので、平成30年度は県立大学全体で294人の学生が活動しています。看護学部では、「健援隊」と「いけいけサロン活動」の2チームが活躍しています。

「健援隊」は、立志社中設立当時から活動を続けている団体の1つです。健援隊は、看護学の専門知識を県民にひろげることで県民の健康文化を豊かにすることを目的に活動しています。当初は、6人の学生が野球部の試合が終わった後に対戦相手のチームにAEDや熱中症について話すことから始まりました。現在ではメンバーの数も増え、本年度は4学年で約80人の学生が活動を行っています。また活動の内容も広がり、今年は香美市の中山間地区で年間を通した活動を香美市の助成金を基に行うことになりました。



●健援隊



●いけいけサロン活動

「いけいけサロン活動」は、平成27年度から活動を続けている団体です。池キャンパスがある池地区で、住民の方と学生で地域交流の促進を目指して活動しています。自分たちの足で地域を回ったり、人が集う機会を作ったり、地域の方々に向けた機関紙「池の暮らし」を発刊する等、地域住民の皆さんと一緒に活動しています。地域の方から「せっかく看護の学生さんと一緒に活動しているから、健康のことをもっと伝えてほしい」という声をいただき、平成30年度は、これまで学んできた看護の知識を使って健康情報を伝える活動を積極的に行っています。地域の皆さんにも、学生の学びを育てていただいています。

[ニュースレターの名前の意味] fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 [fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp](mailto:fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp)